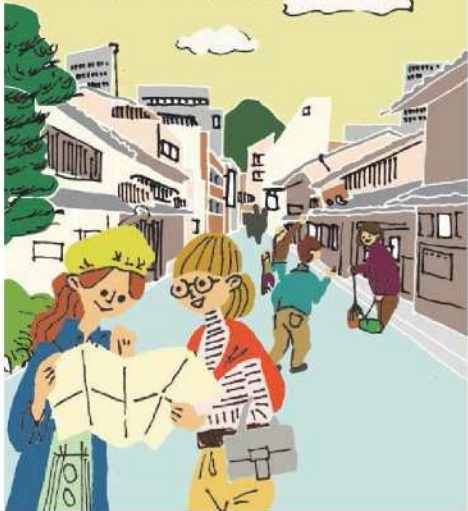


“京都を彩る建物や庭園”  
あまやこうじかいがい  
**姉小路界隈**  
まちあるきマップ



冊子も見る



京都市

協力/姉小路界隈を考える会



**1 俵屋 認定 回廊**

たわや

宝永年間(1704~1711年)に大物間屋として創業、次第に番を半築とするようになり、江戸末期には、様々な京都の雑誌に「寄附」として記載される。船門の室(1864年)で全焼したが、明治初年に洋風館が完成する。



**2 青木家 認定 回廊**

あおき

暖炉やステンドグラスのある洋館が通りを面する。和洋折衷の町家である。高層を巡らせた外廊は新旧が調和する景観の新たな魅力を醸成している。



**4 彩雲堂 認定**

あいらんどう

全国的にも有名な歴史のある日本酒の蔵元で、数々の看板が何層にも並び、店舗入口にある4枚の建前には店主の想いが映り、近年の改修では、表座敷部分を緑意・化粧を刷新された。真鍮の飾も経年すれば生業にふさわしい輝きが増される。



**5 運水亭 認定 回廊**

はすみずみ

大正2年(1913年)の建築。明治末期の設計図等からも、当時の様子を知ることが出来る。運水廊の他に茶室や書斎に併え、時代を越え、夏はしづかにする。軒先から書への風が通り、虫歯から打ち水した庭を眺めると涼やかで、心の安らぎが感じられる。



**6 柗寧 認定 回廊**

たけねい

文政元年(1818年)創業の旅館。葛原町側の外廊は物置と創設30年余りのムヘ、御湯近りには遊廊から入り行く人の目を惹きつけている。



姉小路界隈の  
“京都を彩る建物や庭園”

歴史的な建物が多く軒を連ねる姉小路界隈には、たくさん建物が“京都を彩る建物や庭園”として認定されています。また、その中でも特に価値の高いものとして認定されたものや文化財などに登録されたものもあります。



**認定** 京都を彩る建物や庭園 認定建物

**目録登録文化財** 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

**風景の欄の注意事項**

各建物は、公開してありません。見字は外観のみとし、お住まいの方の生活に配慮の観点から、見字の公開をお断りしています。

※資料の取扱いについてはお問い合わせください。

○“京都を彩る建物や庭園”制度について

京都の歴史・文化を象徴とする、市民が誇りたてる建物を調査、リスト化し、地域の誇りとして守っていくという取組です。

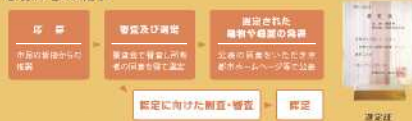
○対象

世代を超えて継承され、京都の歴史や文化を象徴する建物の調査・調査50年以上を経験したもの、所在地が京都市内のものであるもの(市外・町外・村外のものはありません)

○選定及び認定について

・市民の協賛から推薦のあった建物や庭園は、審査を経て“京都を彩る建物や庭園”に選定されます。また、選定されたものうち、特に価値が高いと認められるものについて「認定」しています。  
・認定、認定になることで、現状変更や所有権移転に対して、何らかの制限を課すものではありません。

○応募からの流れ



○市民の皆様のご推薦をお待ちしております

**応募資格**  
・京都市内に在住、通勤または通学されている20歳以上の方  
・自費、無償は問いません。  
・応募方法など詳しくは、ホームページをご覧ください。



推薦を応募

問い合わせ先 京都市文化市民局 文化芸術都市推進課 文化財保護課  
〒604-8008 京都市中京区河原町通御津下町下丸屋町394 Y・Jビル2階  
TEL.075-366-1438  
<http://kyoto-irodoru.com/>

発行/京都府文化財保護 文化財保護部 文化財保護課 京都市印刷局 京280408 平成28年4月発行

まちの紹介

○姉小路界隈について

姉小路通は、北の御池通、南の三条通の間の通りで、歴史的な市街地の中で、低層の戸建てを中心とした落ち着いた佇まいが残り、文人墨客の筆を擧げる格好ある老舗が並ぶ京都らしい街並みを持っています。

その中で東西の寺町通から丸九通に挟まれたエリアにおいて、平成7年より「姉小路界隈を考える会」が活動しています。マンション建設問題を契機とした活動は、その後、町式目(平等院)、建築調査、町なみ歩道整備事業、地区計画の都市計画決定、地域景観づくり推進地区(昭)を実現しました。また、姉小路灯台会などの活動を行うなど、お互いに賞賛し、お互いに協力しながら、「なりのい」を醸成し、もてなしの心を育んできた暮らしの知恵や精神を受け継いでいます。こうしたまちづくりの活動が評価され、数々の賞や表彰が贈られ、民間づくり活動部門賞賞状を受賞しています。  
※京都市が対象となる文化財保護法に基づき、姉小路界隈まちなみ保存会の活動区域内で建築行為、屋外広告物の設置、営業行為等を行う場合、地権者等が事前に協議会の承認や許可を受けなければなりません。

○姉小路界隈を考える会から

姉小路界隈では、20余年の活動を通じて、建物所有者等の協力により、保存建物の修繕を行ってきました。姉小路界隈を考える会は、平成25年から界隈の景観向上に貢献したこれらの建物を“京都を彩る建物や庭園”に推薦しています。“京都を彩る建物や庭園”に認定されることで、所有者の方々の景観への思いも高まります。お断りされている建物は、姉小路界隈のブランド力を向上させ、界隈全体の品格維持、魅力向上に繋がっていくと期待されます。



姉小路界隈を考える会  
<http://anezakikouji.jp/>

○まちづくりのビジョン

姉小路界隈では、良好な景観を維持するためのまちづくり活動を長年行ってきたりしてきました。その過程において、まちにとって大事にしていくことを策定し、それを実現させるためのまちづくりビジョンを定めています。



まちづくりのビジョンを12冊にもたりリーフレットとして配布。

**1 静かでも楽しい住環境を守りつづけて**



夜間静かな環境を守りつづけて

**2 まちへの気遣いと配慮を共有し、安全に安心して住み続けられるまち**



まちを下げて、安全に安心して住み続けられるまち

**3 お互いに協力しながら、暮らしとつながる文化を創出するまち**



お互いに協力しながら、暮らしとつながる文化を創出するまち

○国登録文化財(建造物)とは

近代の文化財建造物を後世に幅広く継承していくことを目的に導入された比較的緩やかな保護制度で従来の指定制度を補完するもの。築後50年を経過し、国史の歴史的要害、高層の規制や再現することが容易でないものといった基準を満たすものが対象。

○景観重要建造物とは

地域の自然、歴史、文化等からみて、建物の外観が景観上の特徴を有する建物のうち、景観計画区域内の良好な景観の形成にとって重要な建築物等を京都市が指定するもの。

○歴史的風致形成建造物とは

長年蓄積の歴史や伝統を反映した人々の活動や、その営みを今も伝える町並みや環境を形成している歴史的な建物のうち、市の定める重点区域内において、その町並みや環境の維持及び向上を図るうえで重要な建築物等を京都市が指定するもの。

町式目について

江戸時代の往來相互の約束事をも定めたもので、この地域の形に継承していたものを平成16年につくられた。このまちの歴史として、その町並みや環境の維持及び向上を図るうえで重要な建築物に提示されています。



まちづくりのシンボル ガス灯

姉小路界隈のまちづくりのシンボルです。明治42年(1909年)に設立された京都府立の高等の地です。





**7 姉小路高倉の1軒長屋**

水廻り二階の1軒長屋。階高が確保されが狭間で、柱に囲まれる暖かみ、住居の趣を感じている。1階は飲食店として使用されており、建てる前まで住居として使用されていた。



**9 井山家**

元は生糸商を営んでいた現在の建物は、明治前半の築屋に引き継がれたもので、一部改修されている。廊下・土階等はほぼそのまま。廊下から見出たされた市瓦は、平成版「姉小路町内街」瓦目として作りつくりの基本建物となっている。



**11 榎田家**

オランダ風をとりこみ洋風に建てられた。出稽・漆喰の色、引き戸を備えるなど、町屋のつくりが感じられる。室外機を付する色子には、ナマリ加工が施された付が使用され、品のよい表情となっている。土階である生糸商の店舗と共用しているらしい。



**13 龜末邸**

文化元年(1804年)明治前半頃の文字屋、製紙業。和風土階の外観を残す2階建て瓦葺の土蔵と、100年以上の戦時用の建物が組み合わさって、再建の華やかさにも馴染みを感じている。



**15 田石川家(和文傳習所)**

文化元年(1804年)明治前半頃の文字屋、製紙業。和風土階の外観を残す2階建て瓦葺の土蔵と、100年以上の戦時用の建物が組み合わさって、再建の華やかさにも馴染みを感じている。



**8 市古家**

正に「餅屋」の職場は、ソーナシ立者の生業である栗田倉製菓社の店舗で、隣に「餅屋」の職場と並び、昭和12年築で新主の独立に譲られたものである。近年の改修で洋風を彩り、落ち着いた雰囲気を取り入れ、高層の町屋風を取り入れた。



**10 岩野家**

牛乳販売を営んでいた時の大型冷凍庫がブルーの2階のシャッターが特徴だったが、1階に店舗用に居住用のツクリの格子戸、2階室にも格子戸、廊下は仕上げを立派なことで、居住者の安心、再興、経年性を向上させ、築き直しが行われた。



**12 岡野家**

外観や茶室をリニューアルされたが、京風の趣や井戸といった古きよきものは残っており、家へのこだわりを感じさせる。外観には土蔵風タコラーラ塗の格子戸が1階が美しく見える。内装の趣も感じている。



**14 菊岡家**

運送業を生業とした土階が江戸初期に作られた瓦葺の土蔵には、家屋が崩壊した戦時用の残りの部分に、奥室を入れたそうである。家主は明治20年頃に建てられた、第二次世界大戦後の経済停滞のため改修した結果、つづきで残存する。



**16 女保田家**

運送業を生業とした土階が江戸初期に作られた瓦葺の土蔵には、家屋が崩壊した戦時用の残りの部分に、奥室を入れたそうである。家主は明治20年頃に建てられた、第二次世界大戦後の経済停滞のため改修した結果、つづきで残存する。



“京都を彩る建物や庭園”  
**姉小路界隈**  
まちあるきマップ

暮らしと文化が共存する姉小路界隈では、住居が主体となり町並みの保全や再生など、築きつくりを取り組んでいます。新築の建物が同じし、調和する町並みが楽しめる姉小路界隈をのびのびと楽しむことができます。新築の建物が同じし、調和する町並みが楽しめる姉小路界隈をのびのびと楽しむことができます。

**03 建物見学 公共トイレ**

各建物は、公開はしておりません。見学は外観のみとし、お住まいの方の生活に配慮のためから入り方ご遠慮をお願いします。

見学の際の注意事項



**17 旭光和園(タカギリ茶園)**

明治期の茶園を飲食店として活用することで残すことを理念に、平成7年に改修された。改修にあたっては、瓦葺の土蔵とならないよう工夫され、内装は、町屋の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**20 砂川家**

赤土から築造。漆喰・土蔵を併用して建てられたため、赤の土階におおむねの趣が感じられる。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。内装は、漆喰、タタミ、漆喰の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**23 西村家**

半世紀以上は町の町屋の町屋の町屋に建てられた。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。内装は、漆喰、タタミ、漆喰の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**26 松島屋本店**

戦後復興を生き延びた町屋として、1978年に創業の老舗。建物は木造の2階建てで、土蔵が併用されている。町屋の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**28 八百三**

町屋の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。町屋の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**18 小林家**

昭和4年(1929年)頃の町屋である。元々大工屋を営んでいたと見られる部分がある。改修にあたっては、町屋の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**21 谷口家**

新築町屋を生業とした現在の町屋の町屋として、住居としての趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**24 榎井屋店**

創業100年以上の老舗が、本道と2階建ての町屋の町屋として建てられた。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**27 森田家**

2700坪の敷地を、京町屋らしい木の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。町屋の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。



**30 吉川**

戦時中より築かれた町屋の町屋の町屋として、住居としての趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**19 里村家**

建物の前面に大工が手を入れている。上階の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**22 鳥屋家**

木造生糸商を営んでいた町屋の町屋として、住居としての趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**25 松屋家**

明治90年建ての町屋。近年外装に和風の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**28 森田家**

古い土蔵が特徴的で、天井の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。



**31 吉澤家**

近年の改修で、全体のバランスを考慮して、外観の趣を感じさせる落ち着いた雰囲気となっている。外観は、古材を多用するが町屋の雰囲気を醸し出している。

